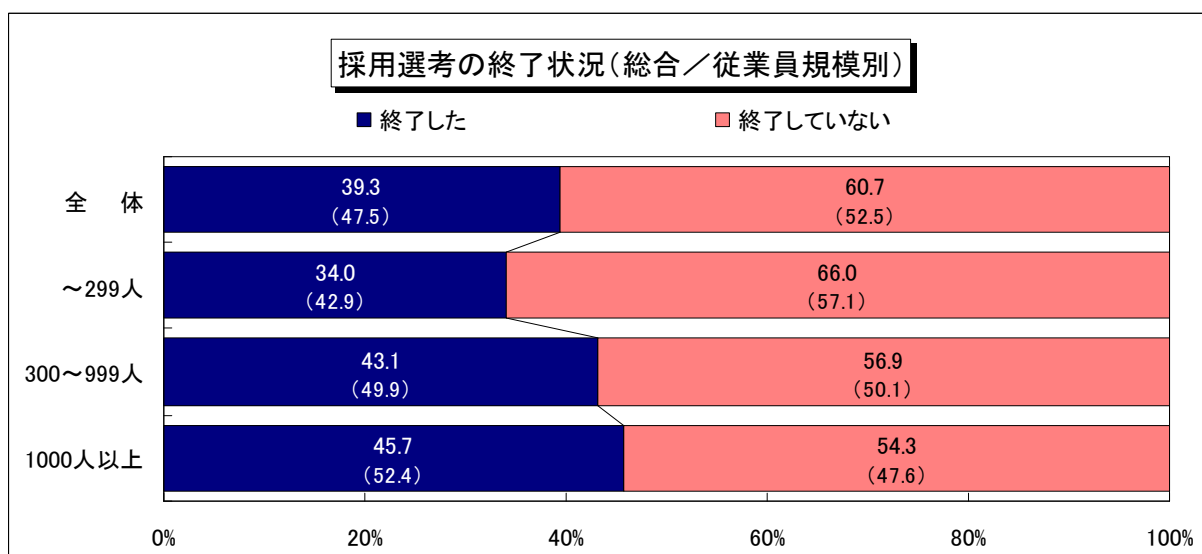
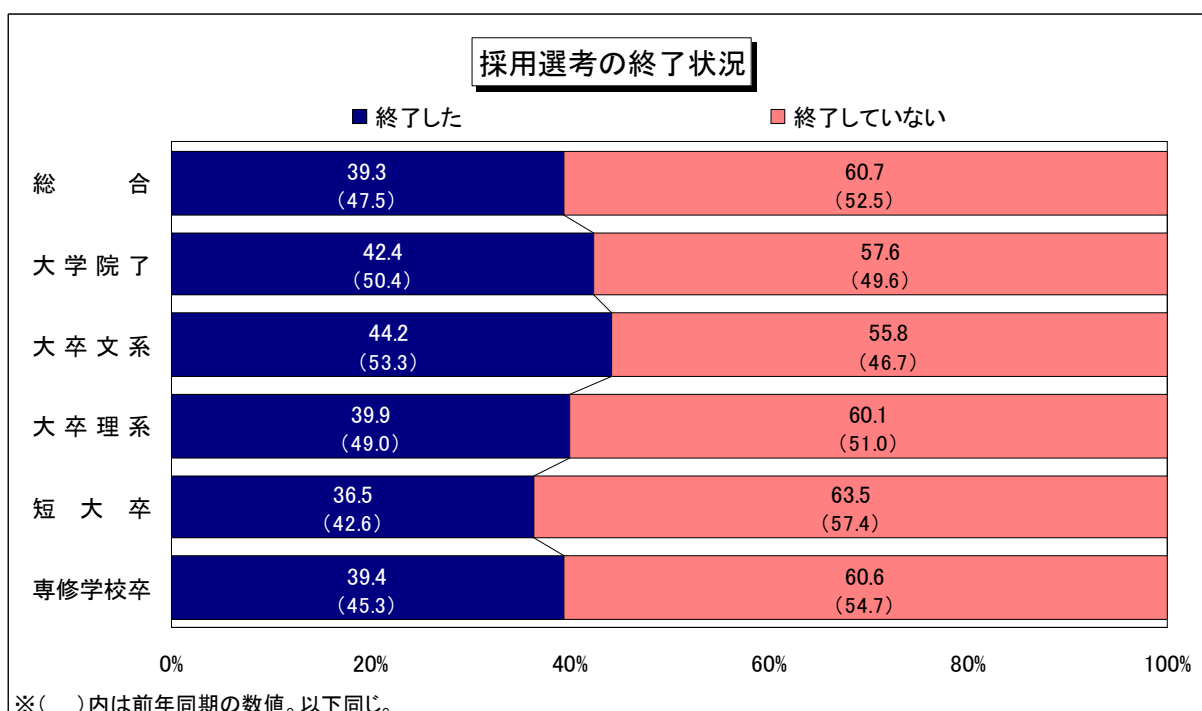


# 「採用活動に関する企業調査」アンケート結果

## ～ 2012年3月卒業予定者等の採用活動に関する企業調査<7月調査> ～

### 1. 採用選考の終了状況

7月下旬の調査時点で、2012年3月卒業予定者の採用選考を「終了した」企業は全属性の総合で39.3%。前年同時期の47.5%を8.2ポイント下回る。それでも、東日本大震災の影響で選考開始を遅らせた企業が収束に向かいつつあり、前回6月調査時（6月16日～24日）の25.4%からは13.9ポイントの増加。また、従業員規模が大きくなるほど終了した割合が高くなるものの、前年からの下げ幅はどの規模も大差はなく、全体的に長期化の様相となっている。



## 2. 2012年3月卒業予定者の充足率

採用予定数に対する内定者の割合、いわゆる「充足率」は、全属性の総合で約7.6割。前年同期の約7.9割を下回った。いずれの採用属性でも前年を下回るが、特に「短大卒」と「専修学校卒」については6割を割り込み、前年との差が大きく開いている。また、採用のボリュームゾーンである「大卒文系」と「大卒理系」を従業員規模別に見てみると、従業員1000人以上の大手企業では前年の充足率を上回っているが、1000人未満の中堅・中小企業では逆に下回り、規模による充足率の差が顕著になっている。

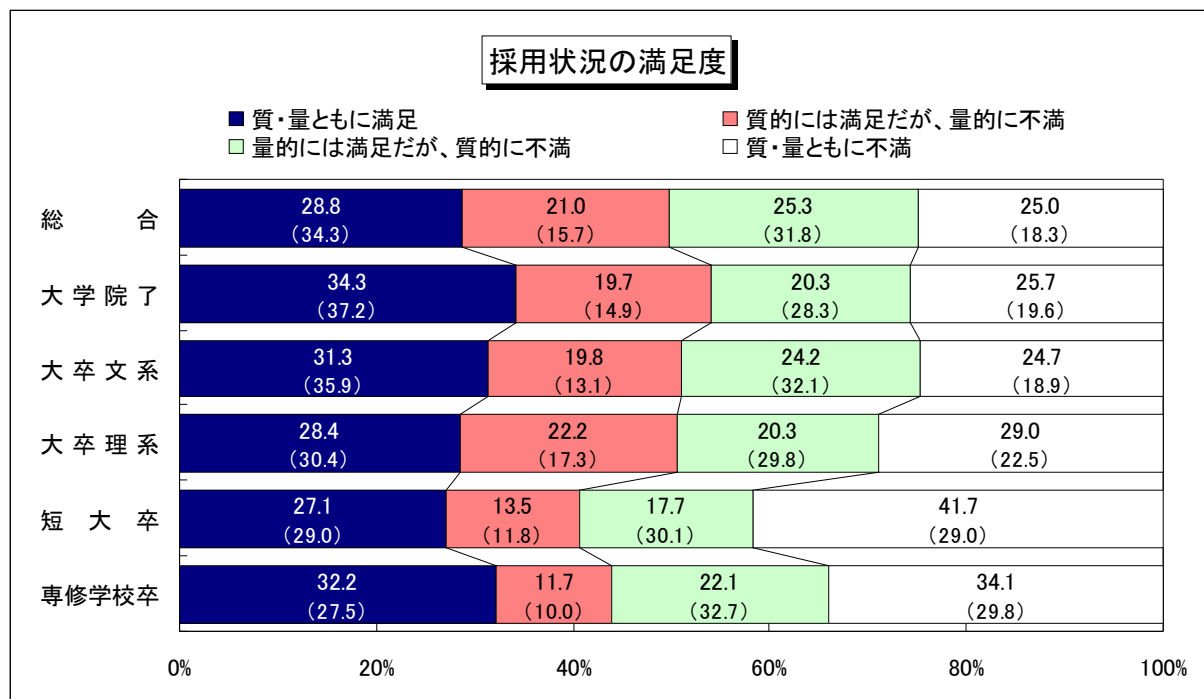
7月時点での内定者の充足率（従業員規模別）

\* 「内定」には、内々定を含む

	全 体	～299人	300～999人	1000人以上
総 合	約7.6割 (7.9)	約7.1割 (7.4)	約7.7割 (8.2)	約8.5割 (8.1)
大 学 院 了	約7.2割 (7.8)	約5.2割 (7.1)	約8.0割 (7.9)	約8.7割 (8.1)
大 卒 文 系	約7.6割 (8.1)	約6.6割 (7.7)	約7.8割 (8.4)	約8.7割 (8.3)
大 卒 理 系	約6.7割 (7.0)	約5.6割 (6.2)	約7.1割 (7.2)	約8.2割 (7.7)
短 大 卒	約4.6割 (6.5)	約4.1割 (6.2)	約5.0割 (6.9)	約5.4割 (6.5)
専修学校卒	約5.9割 (6.7)	約5.7割 (7.1)	約5.6割 (6.6)	約6.7割 (6.1)

## 3. 採用状況の満足度

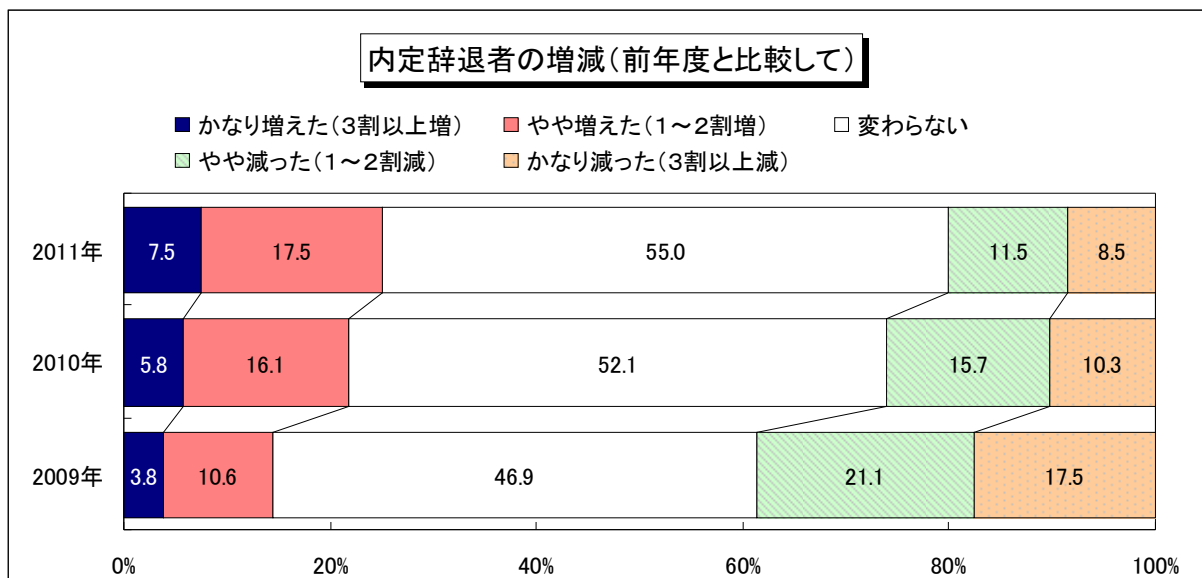
採用状況の満足度については、全体的に「量に対する不満」が高まっている。量に対する不満を表す、「質的には満足だが、量的に不満」と「質・量ともに不満」の合計は、全属性の総合で46.0%。前年の34.0%を10ポイント以上上回る。「例年よりも遅めの選考スタートと厳選採用により、計画数に達していない（運輸・倉庫）」といった、厳選採用を進めた結果、内定者が予定数に届いていない企業がある一方、「震災の影響で大手の内定出しが後ろ倒しになったこともあり、5月に内定を出した優秀な学生からの内定辞退が例年に比べ多かった」（OA機器）など、内定辞退によって歩留まりが下がったというコメントが、中堅・中小企業で目立つ。従業員規模による充足率の差にも関係していそうだ。



#### 4. 内定辞退者の増減

内定辞退者は、やや増加傾向だ。前年度と比較して、内定辞退者が「増えた」の合計は25.0%。「変わらない」が55.0%で半数以上を占めるものの、「減った」の合計20.0%を5ポイント上回る。従業員規模別で見ても、すべての規模で「増えた」が「減った」を上回っている。

前回6月調査時には、「増えた」と「減った」がほぼ拮抗していたが、下記【Voice1】のコメントにもあるように、震災の影響で遅れていた大手有力企業の選考が進むにつれ、早期に内定を出していた企業で内定辞退が増加しているようだ。



**内定辞退者の増減(従業員規模別)**

(%)

	全体	~299人	300~999人	1000人以上
かなり増えた(3割以上増)	7.5	7.8	8.0	6.2
やや増えた(1~2割増)	17.5	13.0	19.6	24.3
変わらない	55.0	63.0	50.5	43.3
やや減った(1~2割減)	11.5	8.0	12.2	18.6
かなり減った(3割以上減)	8.5	8.2	9.6	7.6

#### 【Voice1】——内定辞退者の増減について

##### ■内定辞退者が増えた

- 例年通り4月から選考を開始し、内定出しを始めたが、震災の影響で選考開始時期を後ろ倒した他業界の内定を獲得し、当社の内定を辞退するケースが例年よりも多く見られた。 <調査・コンサルタント>
- 誓約書を出した後も平気で辞退してくるなど、学生のモラルが低下している。<精密機器・医療用機器>
- 今年は震災の影響で6月以降に選考を実施した同業メーカーが多く、例年であれば当社を受験しないであろう学生にも内定を出してしまった結果、辞退者増につながってしまった。 <自動車・輸送用機器>

##### ■内定辞退者が減った

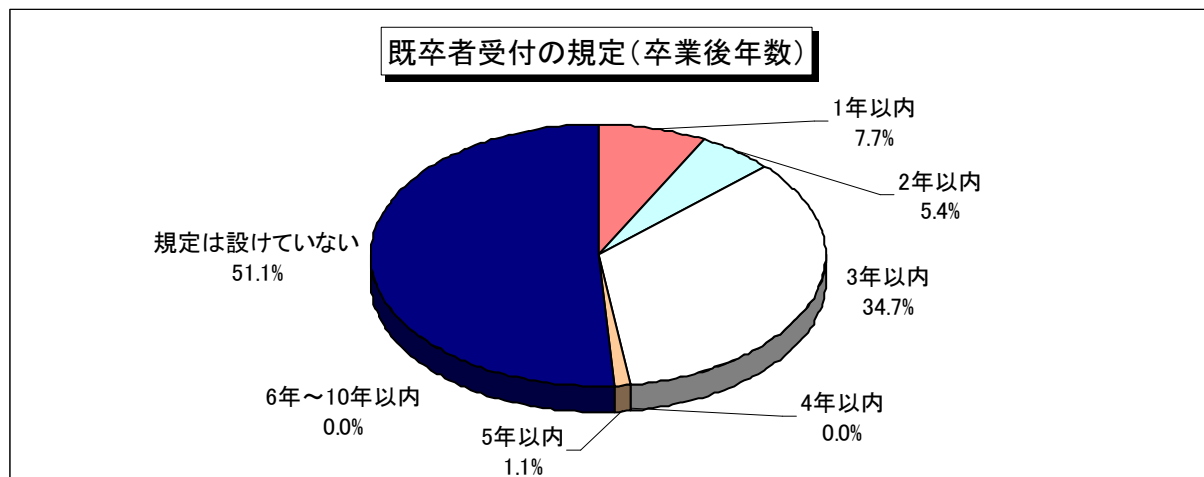
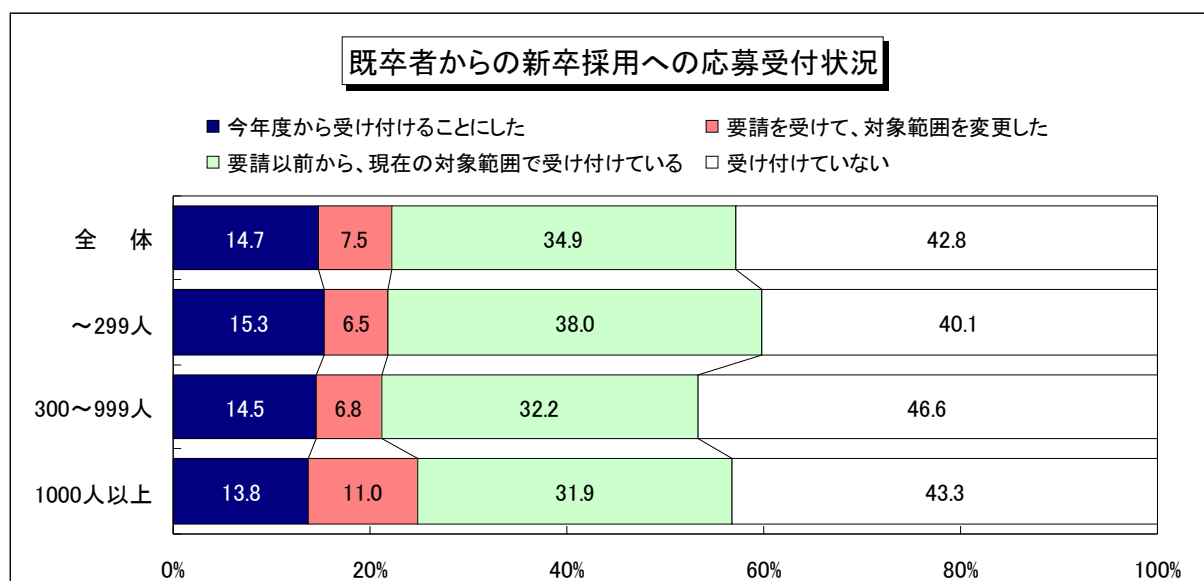
- 選考時期が震災の影響で2カ月程度遅れたため、その間に当社への入社意志を固めた学生が最終選考に臨み、結果的に辞退者が減少したと思われる。 <マスコミ>
- 震災の影響で選考開始時期を遅らせることになったが、お陰で、じっくりと学生と向き合うことができた。深くコミュニケーションを取れたことが大きいと思う。 <専門店>

### 5. 既卒者の「新卒扱い」での受け付け

昨秋、政府から業界団体等に「3年以内既卒者の新卒扱い」が要請されたことを受け、各社の対応状況を聞いた。既卒者を「今年度から受け付けることにした」企業は全体の14.7%。要請以前から受け付けていた企業を足し合わせると、57.2%と6割近くの企業が既卒者を受け付けている。

既卒者を受け付けている企業に、卒業後何年目までの既卒者を受け付けているかを重ねて聞いたところ、「規定は設けていない」が51.1%で半数以上を占めた。年数の規定で最も多かったのは「3年以内」で34.7%。以下、「1年以内」7.7%、「2年以内」5.4%と続く。

また、既卒者の就労経験については、「規定は設けていない」が67.9%と7割近くある一方で、「就労経験がないことを必須としている」企業も26.7%で3割に迫る。その割合は従業員規模が大きくなるほど高まり、大手では4割を超える結果となった。



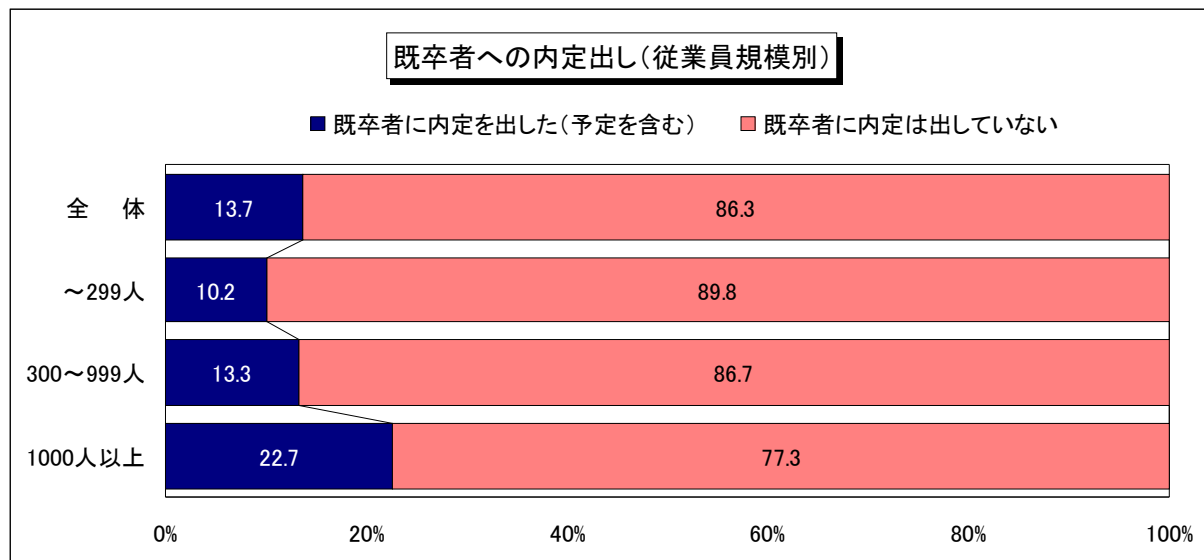
**既卒者受付の規定 (就労経験／従業員規模別)**

	全体	~299人	300~999人	1000人以上
就労経験がないことを必須としている	26.7	19.3	29.5	40.3
一定期間の就労経験は認めている	5.4	6.7	4.2	4.2
規定は設けていない(卒業後の年数制限に準じる)	67.9	74.0	66.3	55.5

### 6. 既卒者への内定出し

既卒者を受け付けている企業のなかで、すでに内定を出した（予定を含む）企業は13.7%。受け付けてはいても、その9割近くが、現状では内定を出していないということになる。

従業員規模別に見ていくと、中小企業で内定を出したのはわずかに10.2%。中堅企業も13.3%にとどまるが、大手企業のみ22.7%と2割を超えている。



### 7. 内定を出した既卒者の入社予定時期

内定を出した既卒者の入社予定時期で、最も多かったのは「2012年4月」で、全体の59.0%（サンプル数が少ないため参考値として見る必要がある）。大手企業では77.8%と8割近くに上り、新卒者の4月入社に揃えようとの意向が感じられる。

次いで多かったのは「2011年7月以前」で、その割合は大手企業では3.7%にとどまるが、中堅・中小企業ではいずれも2割を超えている。

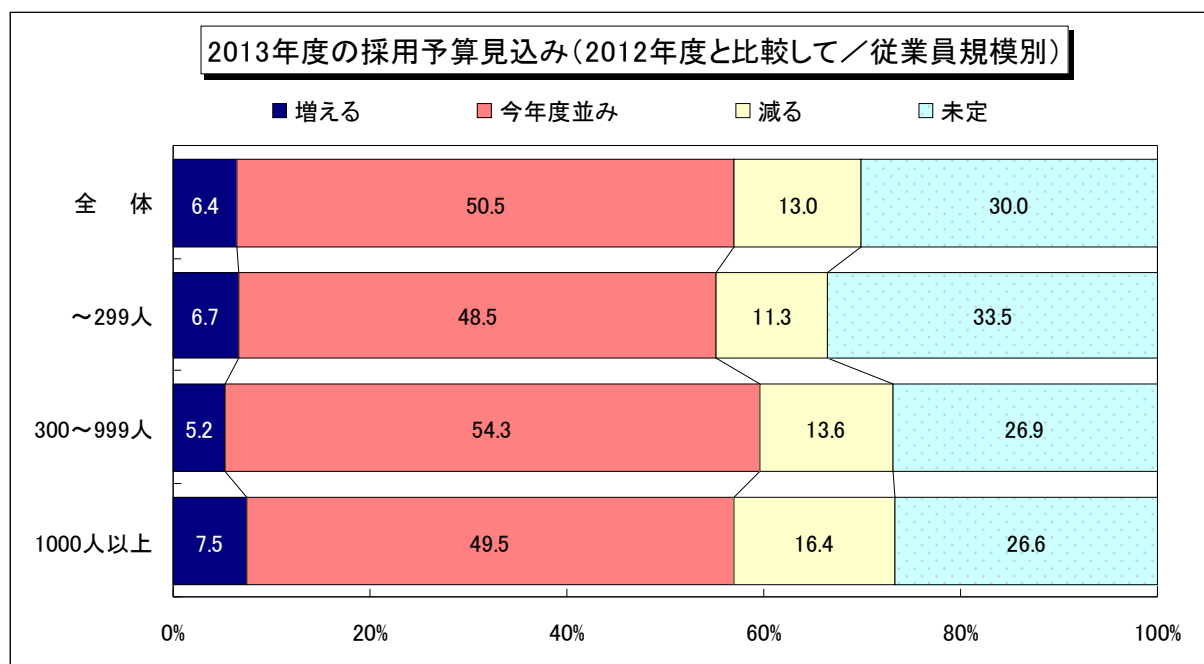
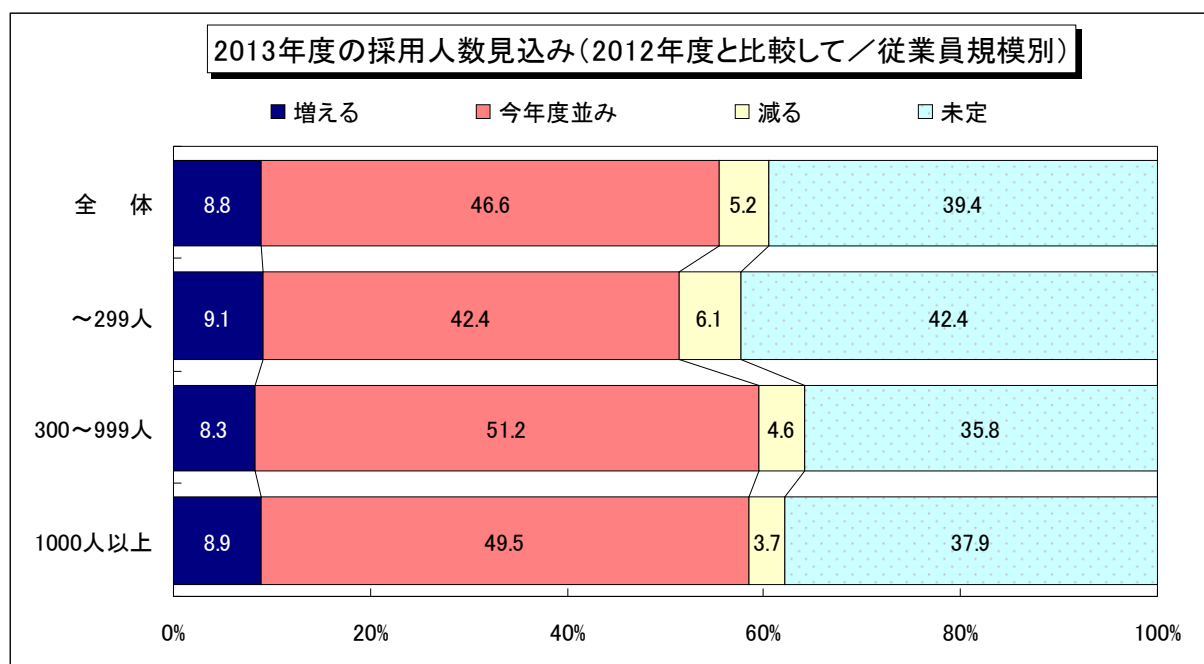
**内定を出した既卒者の入社予定時期（従業員規模別）**

	(%)			
	全 体	~299人	300~999人	1000人以上
2011年7月以前	16.7	24.1	22.7	3.7
2011年8月	5.1	6.9	4.5	3.7
2011年9月	7.7	13.8	4.5	3.7
2011年10月	6.4	6.9	4.5	7.4
2011年11月	0.0	0.0	0.0	0.0
2011年12月	0.0	0.0	0.0	0.0
2012年1月	0.0	0.0	0.0	0.0
2012年2月	0.0	0.0	0.0	0.0
2012年3月	3.8	0.0	9.1	3.7
2012年4月	59.0	44.8	54.5	77.8
2012年5月以降	1.3	3.4	0.0	0.0

### 8. 2013年度の採用人数と採用予算の見込み

来年度、2013年度の採用人数の見込みについては、全体で46.6%の企業が「今年度並み」と回答。「増える」と回答した企業は8.8%で、「減る」と回答した企業の5.2%を3.6ポイント上回った。しかし、「震災の影響もあり、今後の業績が読みづらい状況にある。採用活動についても不透明さがある」（専門商社）と、震災の影響による業績・景気の先行きを不安視する声も根強くあり、それを反映してか、「未定」とする企業は約4割に上っている。

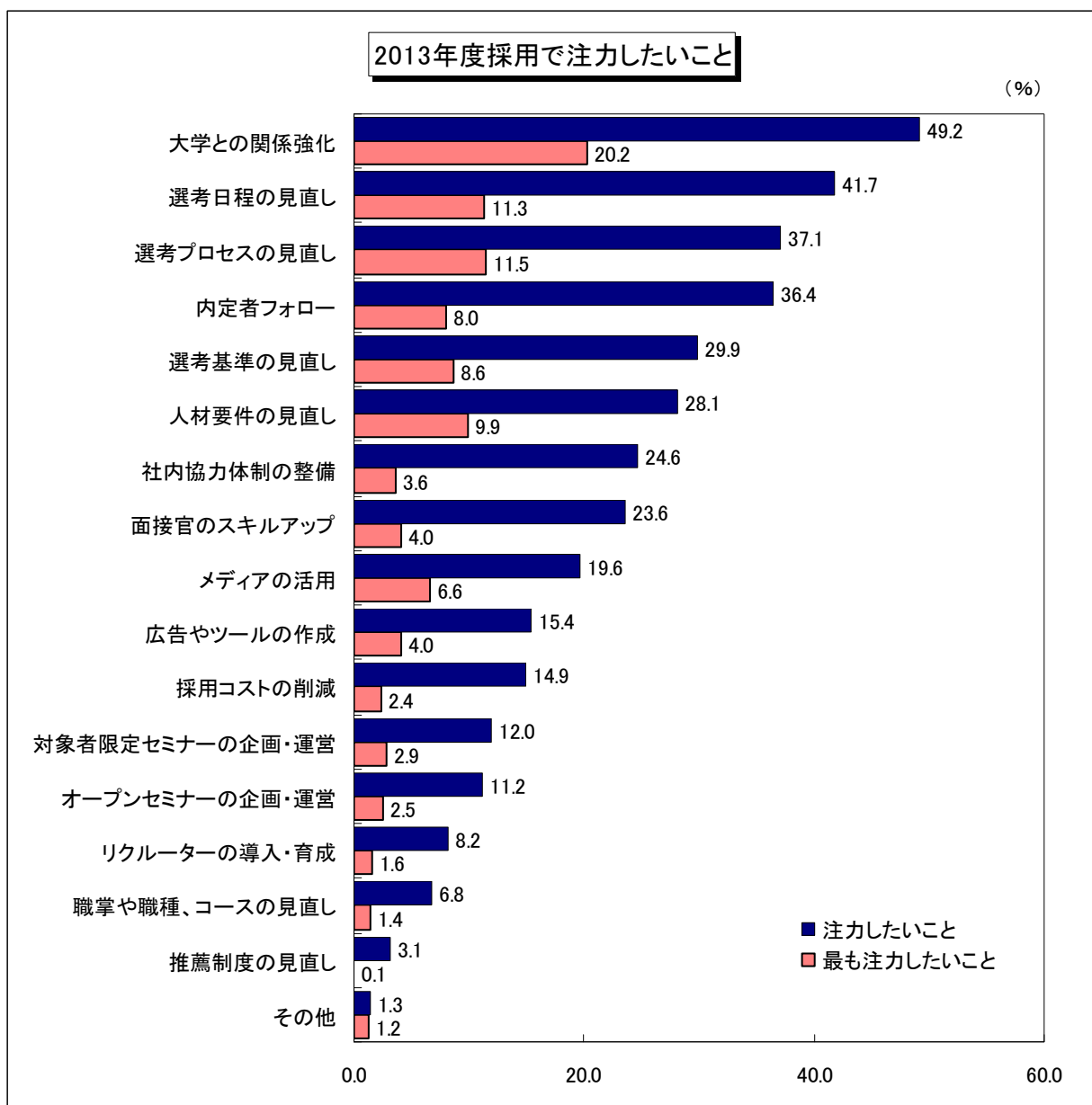
一方、採用予算の見込みについては、全体で13.0%の企業が「減る」と回答。「増える」の6.4%の2倍以上に上っている。「減る」との回答は、中小企業では11.3%だが、中堅企業は13.6%、大手企業では16.4%と、従業員規模が大きくなるほど割合が高くなる。採用市場全体として、来年度も採用予算の縮減は避けられそうにない。



### 9. 2013年度採用で注力したいこと

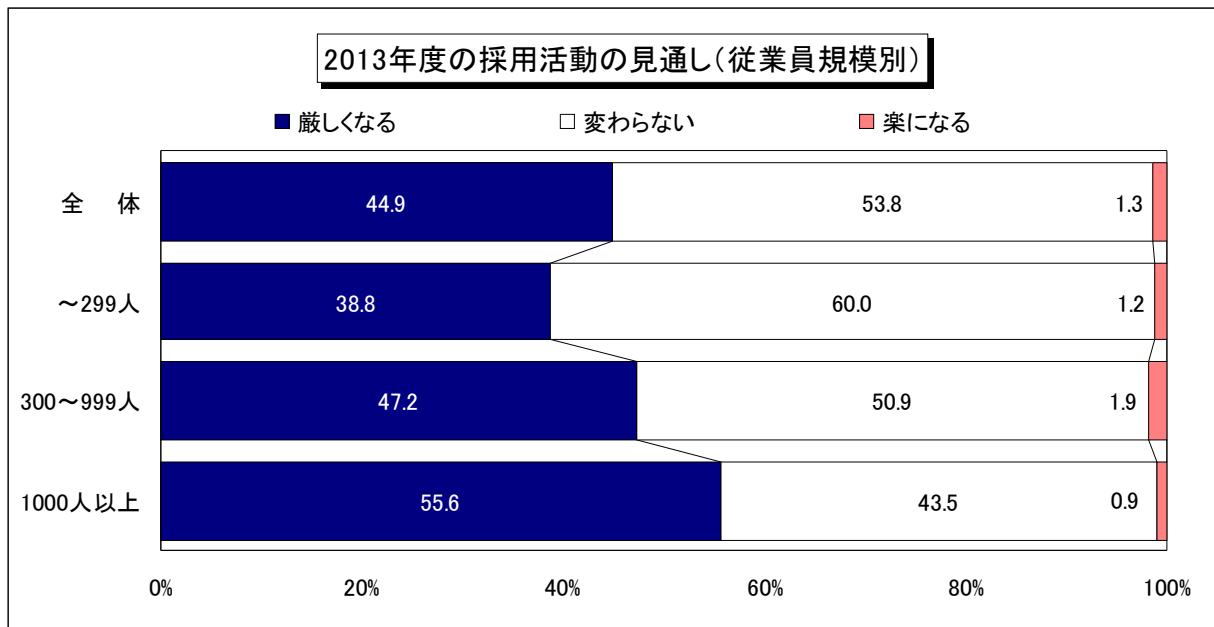
2013年度の採用で注力したいこととして、最も多くの企業が選んだのは「大学との関係強化」で、49.2%と半数に迫る。「お金をかけた施策を打つのは難しくなっている。その分、足を使った施策、つまり学生との直接的な接触機会を増やす方向で注力することになる」(調査・コンサルタント)とのコメントに代表されるように、限られた採用予算のなかで学生とのダイレクトな接触を図る手段として注目度が高まっている。

2番目に多かったのは「選考日程の見直し」で41.7%。2013年度の倫理憲章で、採用広報の開始時期が12月1日以降と明記された。その対応として、「採用広報開始時期の後ろ倒しに合わせて、選考日程を見直す必要がある」(機械・プラントエンジニアリング)という企業や、「大手企業の採用選考が4月に集中すると言われている。そこを考慮し、選考時期を1カ月程度ずらすことも検討している」(医薬品・医療関連・化粧品)など、他社の動向をにらみながら見直しを図っている企業も多い。



### 10. 2013年度の採用活動の見通し

2013年度の採用活動が今年度と比べてどうなるか、見通しを聞いた。全体で最も多かったのは「変わらない」で53.8%。その一方で、「厳しくなる」と予想している企業は44.9%に上り、「楽になる」はわずか1.3%であった。大手では「厳しくなる」が55.6%で最多となり、他の規模に比べて危機感が高まっている。



#### 【Voice2】——2013年度の採用活動の見通しについて

##### ■厳しくなる

- 広報期間の短縮により大手志向がさらに強まり、学生の認知度が低い BtoB 系の企業等は非常に厳しい状況が考えられる。有効母集団の確保、入社意欲の醸成など、いろいろな課題がある。 <運輸・倉庫>
- 理系の学生の応募者数が昨年より少なくなっている。来年度もこの傾向が続くと見られることから、かなり苦戦するものと思われる。 <電子・電機>
- 採用広報の時期が2カ月後ろ倒しになることにより、自社の選考時期も後ろ倒しになり、全体として長期化すると思われるため。 <情報処理・ソフトウェア>

##### ■楽になる

- 本年度は震災の影響による機会損失が思いのほか大きかったと感じている。震災の影響が本年度より減少し、例年通り4月選考開始になれば少しは楽になると考える。 <精密機器・医療用機器>
- 今年は大学訪問に注力し、それなりの関係を築けた年であったので、来年は次のステップへつなげられる。 <自動車・輸送用機器>

#### 《調査概要》

調査対象 : 全国の主要企業 16,868社  
 調査時期 : 2011年7月25日～8月1日  
 調査方法 : インターネット調査法  
 回答社数 : 1,104社  
 調査機関 : 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-5804-5567 / 株式会社ディスコ キャリアリサーチ